

【クロージング】

司会: 高橋清久(財団法人精神・神経科学振興財団)

大島巖(日本社会事業大学/ NPO法人地域精神保健福祉機構・コンボ)

伊藤順一郎(国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所

NPO法人地域精神保健福祉機構・コンボ)

リカバリーフォーラムの最後には、必ず「クロージング」のプログラムを設けます。

昨年までは、登壇をしたコンボ理事たちで2日間のプログラムの総括を行っていました。

リカバリーフォーラム 2012 では、参加者の方達に、自分が参加できなかったプログラムで話し合われたことや雰囲気を実感していただくために、グループトークを行いました。

大ホールに集まった参加者はおよそ 400 人。

近くに座っている参加者の方々が声をかけあい、10~20 人前後の小グループをつくり、自己紹介をし、それぞれの分科会の内容や話し合われたことの共有化をする場としました。

今回のリカバリーフォーラムのテーマは、「これからの 10 年」というものであり、各分科会では、最後に「これからの 10 年」というテーマで発表者や参加者達が話し合う時間を設けていました。

そこで、「クロージング」では、それぞれ人たちが参加した分科会で話し合われた「これからの 10 年」についてお互いに報告しあいました。

およそ 20 分の話し合いの時間はどのグループも大いに盛り上がり、会場は、熱気に包まれていました。話し合いの時間が終了し、7 グループの方から、話し合ったことを発表してもらいました。

「リカバリーという言葉キーワードにして、全国のたくさんの仲間や支援者がつながっていることに、とても勇気がもたらえた (当事者)」。

「これからの 10 年は、医療・福祉・家族の一方的な視点ではなく、当事者がどのように生きていきたいかという視点が重視されるべきだと確信した(当事者)」。

「他の分科会のくわしい内容がもっと知りたくなった (ご家族)」。

「リカバリーは、あらゆる分野においてこれからの 10 年の方向性を指し示すものになることを実感した (支援者)」。

などの発表がされ、2 日間にわたるリカバリーフォーラムを全体で共有化し、終了しました。

《丹羽大輔 (NPO法人地域精神保健福祉機構・コンボ)》